

入浴中の溺水事故を低減するための浴槽レス浴室のバリアフリー基準に関する検討

(研究期間：令和3年度～令和5年度)

住宅研究部 住宅生産研究室 主任研究官
(博士(工学)) 小野 久美子 室長
(博士(工学)) 脇山 善夫

(キーワード) 在宅高齢者、溺水事故、浴槽レス浴室、バリアフリー基準



1. はじめに

社会の高齢化に伴い在宅高齢者の入浴中の浴槽での溺水による死亡者数が増加している。2019年の人口動態統計に基づき国総研で試算したところ、65歳以上の住宅内の溺水死亡者数は年間約5,700人であり(表)、この死亡者数の93%を65歳以上の高齢者が占めていることが分かった。高齢化率の推移等からも今後さらに高齢者人口が増加することは明らかであり、溺水死亡事故への対策が急務となっている。

そこで国総研では、近年開発が進む「浴槽レス浴室(浴槽のない浴室)」での入浴(例えばシャワー浴やミストサウナ浴等)が溺水事故の防止に効果的であることに着目し、現在未整備である浴槽レス浴室のバリアフリー基準について検討を進めている。

2. 検討概要

本研究は以下の2つの検討課題で構成されている。

①浴槽レス浴室の利用安全性・容易性等の実験検証
浴槽レス浴室の必要空間寸法や手すり位置等の検証と入浴者及び介助者の動作の安全性・負担等の検証を行う。

②浴槽レス浴室のバリアフリーに係る技術基準等の開発

上記実験検証の結果を踏まえ要求性能水準の設定を行い、バリアフリー基準案の作成と(図は検討項目例)、新築の住宅や既存住宅の浴室改修に活用できる浴槽レス浴室の技術資料を検討する。

3. 令和3年度の検討事項

研究開始初年度である今年度は、入浴や浴室の安全性に関する概念整理を行った上で、高齢者を想定した入浴に係る行動パターンについて、車いす使用、介助者の有無など入浴者の身体的条件別に整理した。そして次年度実施予定の実験検証に向けて、検証す

表 建物内での事故による死者数(2019年)

	2019年			
	住宅	建築	小計	
日常災害	中毒	56	6	62
	墜落	558	159	717
	転落	388	79	467
	転倒	1,448	533	1,981
	落下物・衝突等	17	8	25
	感電	0	0	0
	溺水	5,673	384	6,057
	火傷	190	2	192
小計	8,330	1,171	9,501	
非常災害	火災・爆発	672	3	675
	天災・電撃	30	0	30
	小計	702	3	705
総計	9,032	1,174	10,206	

(単位：人)

べき行動パターンの動作確認や、浴室の平面配置とシャワー(水栓金物位置)やカウンターといった浴室内の機器の配置等を確認した。

4. 今後の方針

中間年度である次年度に浴槽レス浴室の利用安全性・容易性等の実験検証を行い、最終年度に浴槽レス浴室のバリアフリー基準案および技術資料の提案を予定している。

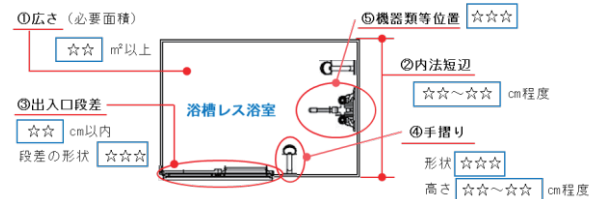


図 浴槽レス浴室の基準検討項目(例)

【参考文献】

- 津留崎ほか：入浴・浴室の安全性に関わる現状と課題－浴槽レス浴室のバリアフリーに関する研究その1－日本インテリア学会第33回大会 研究発表梗概集，pp. 47-48，2021. 10
- 小野ほか：浴槽レス浴室に必要な性能とその検証方法－浴槽レス浴室のバリアフリーに関する研究その2－日本インテリア学会第33回大会 研究発表梗概集，pp. 49-50，2021. 10